

第4回 京都駅東部エリア活性化将来構想検討委員会

《日時》

平成31年3月20日（水）10:00～12:00

《場所》

しんらん交流館1F 大会議室（会議室A～C）

《委員》

氏 名	所 属 等	備 考
赤星 周平	（公財）京都文化交流コンベンションビューロー 国際観光コンベンション部長 （公社）京都市観光協会事務局次長兼国際誘客推進部長	
植田 義雄	京都美術工芸大学事務局長	
長上 深雪	龍谷大学社会学部教授	欠席
鎌田 高雄	稚松連合会会長	欠席
佐藤 知久	京都市立芸術大学芸術資源研究センター准教授	
高岡 千浪	京都美術工芸大学工芸学部3回生	
谷中 知世	市民公募委員	
丹治 潔	七条商店街振興組合理事長	
寺川 政司	近畿大学建築学部建築学科准教授	
菱田 不二三	崇仁自治連合会会長	
松永 洋子	京都市民生児童委員連盟会長・貞教学区民生児童委員協議会会長	
門内 輝行	大阪芸術大学教授・京都大学名誉教授	委員長

（五十音順，敬称略）

《配布資料》

- 資料1 京都駅東部エリア活性化将来構想検討委員会 委員名簿
- 資料2 「京都駅東部エリア活性化将来構想（案）」の市民意見募集結果
- 資料3 市民意見募集の結果を踏まえた「答申案」の修正について
- 資料4 京都駅東部エリア活性化将来構想（答申案）
- 資料5 京都駅東部エリア活性化将来構想策定に係るスケジュール

《議事録》

1 開会

◆事務局

予定の時刻になりましたので，ただいまから第4回京都駅東部エリア活性化将来構想

検討委員会を開催いたします。各委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

本日の委員会につきましては、12名の委員のうち、現在9名に御出席をいただいております。委員の過半数が御出席しておられますので、委員会規則の規定により、委員会は成立していることを御報告させていただきます。

なお、長上委員、鎌田委員につきましては御都合が悪くやむなく御欠席と伺っております。

また寺川委員におかれましては、少し遅れるということで聞いておりますので、間もなくいらっしゃるかと思います。

また、当委員会は公開であり、報道関係者および市民の皆様の傍聴席を設けておりますので、御了承のほどよろしくお願い致します。現在報道機関1社、来ておられますし、傍聴は現在ゼロのようでございます。よろしくお願いを致します。

また、本日の会場は東本願寺さんに御協力をいただきまして、このような素晴らしいきれいな場所で開催をさせていただいております。こうした場所で最終回となります検討委員会を開催できることを、大変喜んでおるところでございます。

では、ここから門内委員長に議事進行をお願いしたいと存じます。門内委員長、よろしくお願いを致します。

2 議題

(1)「京都駅東部エリア活性化将来構想(案)」の市民意見募集結果について

(2)「京都駅東部エリア活性化将来構想(答申案)」について

◆門内委員長

それでは、以降の進行を務めさせていただきます。御協力のほどよろしくお願い致します。

昨年の9月からこれまで3回の委員会を開催してきましたが、本日はいよいよ最終回でございます。今回は市民意見募集の結果を踏まえ、答申の内容を確定させることとなっておりますので、その前提で皆様から御意見をいただければと思います。

それでは、議題に移ります。議題は次第の表紙の2番のところに書かれていますけれども、議題の(1)「京都駅東部エリア活性化将来構想(案)」の市民意見募集結果について、そして、議題の(2)「京都駅東部エリア活性化将来構想(答申案)」について、せて御議論いただきたいと思います。

まずは事務局から説明をお願い致します。

【資料2，3，4につき、事務局から資料説明】—省略—

◆門内委員長

説明は以上でよろしいですか。

それでは、将来構想の答申案と、市民意見募集について御意見をいただきたいと思えます。この委員会では、答申案の方を見ていただきますと、構想の策定に向けてということで、例えば、2ページ目に構想の位置付けということがいろいろ、10の各種項目、計画も書いてございます。

それから、地図を見れば分かりますように、やはり一番大きなインパクトは崇仁地区に京都芸大、あるいは銅駝美高校が移転してくるということです。そして、またそのエリアの居住の状況というものもこの議論の中でずいぶん分かってきましたので、現実の問題を押さえながら、将来を見据えてという議論がいろいろ行われてきました。

それから、本エリアのポテンシャルと課題というのを見ながら、最終的には11ページにあるような将来ビジョン、だから、大きなキャッチフレーズとしては「文化芸術都市・京都の新たなシンボルゾーンを創生し、人と人、人と地域がつながるまち」というのが全体のキャッチフレーズになっており、その将来像が三つのポイントに分かれています。この12ページのガイド欄が基本的な関係がよく分かるようになっています。将来ビジョンと三つの将来像、「子ども・若者から高齢者まで、安心・安全に暮らし、誰もが集い、交流し、活力のあるまち」。これが一番ベースにあるわけです。

それから、将来像の2として、「京都の玄関口・京都駅およびその周辺と東山の文化エリアを結ぶ立地にふさわしいにぎわいのあるまち」。

3番目に「京都はもとより、国内、世界の文化芸術をつなぐ拠点となるまち」。

これに対して、方策が考えられ、それぞれに推進項目が用意されているという関係になっております。

一応4回目の議論で、パブコメも経て修正案が出てきたというかたちになっております。

それでは皆様から市民意見募集の結果や方針案の説明がいただけましたので、それに対する御意見をいただき、意見交換を40分ほどしていきたいと思っております。いかがでしょうか。

佐藤委員、すごくメモを取られていたようなので、何か口火を切っていただけますか。

◆佐藤委員

まず、たくさん市民の方々から意見を寄せていただいたということに、まず僕から言うのも変ですけども、お礼を言いたいと思っております。京都市立芸大の移転に関しては、賛成の意見も、否定的というか、反対の意見もありましたが、はっきりと賛成、反対を表明しなくても、この計画にこれだけたくさんの方たちが関心を寄せてくださったということは、総じてこの地域を、文化芸術を創造発展させていく場所として、市民の方たちにも絶対的には受け止めていただいているのではないかなと、まず思ったということを申し上げたいと思います。

その上であとは細かいことになりますが一つ考えていたことで、最近、大学の将来の教育の在り方みたいな議論をしております。今、一つ、これは日本の社会情勢、世界の社会情勢とも関係すると思います。

まず、芸大が今回移転をさせていただいて、新しいものをつくっていく環境を新しくつくれるということは大変ありがたいことですが、そのことは十分にありがたいと思います。

これは大学だけでどうしようもできない部分というのがあって、それは卒業後のことです。卒業後の20歳代初めから30歳代ぐらいまでの時期に、やはり社会情勢の変化もあると思いますが、その卒業して10年間でどんなふうにもその芸術家として生きていくかということが非常に厳しくなっていると思います。

それが学生が大学にいる間の精神状態というか、生活にも影響を与えている感じがしており、大学で頑張って送り出していくわけですが、やはり、それだけではなかなか芸術活動が続けていくのが難しいような社会情勢というのが、大きい意味であると思います。

この地域に僕が持つ将来像というのは、そういうその20歳代に貧しい中でも努力してものをつくり、人々の心を豊かにしていくということに身をささげようと思った若者たちが、生きていける場所になるといいなと思っています。

そのためには、そういうまたどうなるかよく分からないけれども、頑張っている学生たちと地域の方たち、市民の方たち、世界の方たちが一緒に卒業生たちと活動していけるような場所や、施設などがあればいいなと思います。

それは芸術家の卵たちと市民の人たちが、芸術家の卵たちに何かしてもらいたいな感じではなく、市民の人たちもしてあげるみたいな関係と言うのでしょうか。一方的にもらったり、あげたりするというよりは、一緒に成長していくというのでしょうか。

というのも、文化芸術というのは商品みたいに買ってこられるものだけではないと思っています。もちろん買ってこられるものもありますが、やはり、一人一人の市民の生活というか、市民の中に、自分の体の中にもう1回入り込むというか、うまく言い表せられませんが、単に消費するだけではなくて、つくるということも同様です。

例えば、音楽は非常に素晴らしいと思いますが、音楽は聞くだけではなくて、少し演奏してみるとか、楽器をぼんとはじいて音を出してみるだけでもいいと思います。

そうすることで全然聞くだけではない関係に入られると思います。そういう自分でも少し鳴らしてみたら気持ちがいいとか、何かそういう自分の生活の中に芸術が、上からとか、商品としてだけではなくて、自分もやってみるとか、つくってみるとかたちで、一緒に入っていくといいなと思っています。

例えば、今、芸大を出て面白い学生の就職先としてあるのは、福祉施設です。福祉施設、あるいは高齢者施設など、そういうところはある意味で心を弾ませたい。もっと心を弾ませたい。元気になるというか、生活を豊かにしたいという方たちのところに、そ

ういうことができる人たちが一緒に就職して、働いて、生活していくみたいなことが仕事場としてあると、やはり芸術が持っている一つの社会的な意味みたいなものが、今そこに象徴的に表れていると思います。

だから、具体的に言うと、今、はっきりとは言えませんが、そういう方向性がずっとどこかに残っていけばいいなと思っています。

◆門内委員長

例えば、今おっしゃったように、今若い、出て20歳代から30歳代の前半ぐらいまでの時期の人は芸術に限らず、科学技術者の卵たちも、ものすごく苦勞しています。今例えば大学の助教のポストがすごく削減されて、京都大学でも、5%シーリングと言い、予算の5%を使うなという指示が出ています。それを全部助教のポストで吸収しています。だから、若い人たちのチャンスがすごく少なくなっています。かつ助教もほとんど期限付きになり、3年とか5年の任期でいくという、そんな非常に厳しい状況になっています。

だから、先ほどおっしゃったように、大学と地域を抽象的に考えているのではなく、大学にどのような人がいて、地域がどういう問題を抱えていると、そのつなぎ目のジャンクションというか、インターフェースをすごくつくらなくてはいけないなと思っています。それはやはり大学とその周辺の地域の中に埋め込んでいくということがすごく大事です。

実はこの答申を読んだときに、すぐに私は事務局にその辺りを入れてもらいました。例えば、地域の中にサテライトスタジオのようなものや、そういうものが点在していると、そういう若者がそこで何か工芸をつくっていて、それを地域の人が入っていく、そういういろいろな仕掛けがあると思いますが、そういう地域と大学を結ぶその結び目のようなものを、やはり作り込んでいくというのが、結構問題としては大事です。

というのは、方針1、2、3というのを分けていますが、今のような拠点というのは、1、2、3と通底して、福祉だったら1だと思います。その福祉のところに芸術が入っていくといことになる、1と3と相互に関わるということで、意外とこのツリーで下ろしていつているところで、つながるアイデアをどう入れていくかというのが、難しいところがあります。

だけど、こういう項目に分けたことの分かりやすさがあります。一方で方針1と方針3と一緒にできるようなアイデアというのが、落ちてしまったりするところがある気がします。そこを何か改善して欲しいと思っています。

特に大学から大学院、その後しばらくの10年ぐらい、あと、専門分野をちゃんとやるというのが私の自説ですが、10年がかかります。10年あると、ある一つの分野の専門家として、プロフェッショナルとしていけるというのに、やはり10年の歳月がかかります。その10年の歳月をサバイバルしないと人材が育たないのです。

だから、今大学が抱えている問題もすごくそういうところがあって、非常に危惧をしており、そういうのが周りの地域が支え合う仕組みとしてあって、そういうのが地域というかたちで入ってくれとすごくいいと思います。

それから、若者にとっては抽象論ではなくて、現実そこに人がいて、社会があって、そのフィールドの中でリアリティーを持って学んでいけるということがあるので、そういう全体が広い意味での大学になっているような芸術文化都市になるといいなと思っています。

その全体を重ね合わせた部分を何か書き込みたいなのというのがありまして、事務局にはお伝えしています。

寺川委員、いかがでしょうか。

◆寺川委員

今おっしゃったとおりだと思っています。この構想を拝見したとき、御意見もそうですが、やはり絵に描いた餅にしないという、そこが今回の一番重要なポイントになるかなと思っています。

芸大が来るというのはもう少し時間がかかりますが、その時間のデザインというか、間をどう埋めていくかというときに、やはり必要になってくるのが具体的な仕掛けと云いますか、見える化だと思います。今からプロセスをデザインしていくということをしないと、描いたけれども、結局来てからさあ話をしましょうということであれば、このビジョンも絵に描いた餅になるだろうというふうに思っています。

そういう意味でまず一つ目が都市化のデザインや、移転から始めるではなくて、今からすると。それはバズフィでもあると思います。

二つ目のエッジのデザインというか、今回のビジョンというのは、東南部、西部、東山、北とか、その間を紡ぐような、そういうビジョンになっていると思うので、そこをどうつないでいくのかというのがあると思います。

三つ目が、横と縦のデザインについて、それは人もそうですし、空間、制度も行政の仕組みも同様です。エッジも関係してきます。

活動をつなげて見える化する仕組みがないと、どうしてもこれは具体化できず、物語をつくっていくというか、今からその物語をどの仕組みでつくれるのかという辺りが、やはりこの中でイメージしやすいようにした方がいいのかなと思いました。

例えば、アートというのを、今メッセージが付いてきているわけですが、大学とアートとまちづくりというのをつないだときに、教育的なアクティブラーニングや、サービ斯拉ーニングみたいなものは、まちづくりの中で組み込めるはずなので、メディアとしてのアートとかが、アクティブラーニング、サービ斯拉ーニングのまちづくりを進めていく中で、地域の方や学者が、いろいろな人が気付きを得たりとか、アクティビティーを生み出したり、担い手をつくっていったりという、そういう仕組みがどこだと

というのが見えた方がいいのかと思いました。

例えば、もう少し具体的に言うと、コミュニティービジネスなど、チャレンジできそうだと思います。チャレンジできる場というのが、ここらは環境が整っているというような、そういうメッセージもいるのでしょうし、それがゾーンのブランディングなど、このまちはそうやってチャレンジを受け止められるようなまちですねという、それも今から醸成していくということが大事ではないかなと思いました。

もう一つ最後ですけれども、この空き地や空き家など、このエリアとしての特徴があるので、そこはこの間ずっとエリアマネジメントの方でもお話が出ています。やはりその問題も見える化していくことが重要であり、点として考えるのではなくて、それを線や面にしていくということが大事です。

先ほどの、時間のデザインに戻りますが、高齢化が進んでいるわけですから、その問題をどう解決していくのかということも、今からやっていくべきことですし、若者がどう入ってきて、チャレンジできる場所があるのかということも、その中で、もう1年目から今回400万付いていると聞いています。

それがみんなの、あそこのビジョンをこうやって具体化していくことにつながります。それぞれやっている活動がばらばらではなくて、こういうつながりがあるということ、そういう活動もいろいろ起こってくる活動を横串化して、見える化していくということも大事なのかと思いました。

ビジョンが絵に描いた餅にならないように、そのイメージです。

◆門内委員長

特にあれですね。どうぞ。菱田委員。

◆菱田委員

今先生の言われた絵に描いた餅にならないということで、お話をいたします。どうせ絵に描いた餅だろうと思い、私はこの会の第1回目は参加しておりません。今崇仁地区ではもっともっと喫緊の課題があるので、この絵に描いた餅の会議には出たくないというのが理由でした。しかし、そうはいかないということで第2回目から参加させていただきました。

今度のこの答申、意見にも、やはり崇仁地区というのは京都で一番年寄りのまちと。京都市の縦割り行政にも本当にあきれています。これから、芸大とともにこういう今度の答申の内容のことを頑張ってやらないといけないと思います。そのためには、今まで崇仁という連合会がつくったNPO崇仁まちづくりの会が経営していた下京いきいき市民活動センター、これが取られました。

客観的な判断されたとは言われますが、内容的に出した文章、出した計画内容で負けているはずがないと思っていました。この内容に沿って、私たちは例えば、芸術で言っ

たら、しようと言われたのが、世界的に有名な、大佛師、松本妙慶、これを崇仁に呼び、芸大の学生とコラボさせて、そのいきいき市民活動を進めていけるのではないのでしょうか。

茶室だったら、それは裏千家の玄室、お茶会みたいな生徒さんの会長さんと呼び、松竹映画の大プロデューサーの監督と呼び、それだけ全部出して負けるはずがなかったのですが、何か取り上げられてしまいました。僕は、これは何か京都市の意向が働いたと思っております。

一方ではそうしながら、この会ではその駅前東イコール、崇仁地区という、芸大が来るのは大変楽しみにしています。5ページに書いてありますように、人口減少、高齢化、これに対して会議の中でずっと要求してきました。しかし、何も進んでおりません。

今から楽しみにしているのが、新しい方の7ページの中で、本市の考え方の中で子育て世帯等の市営住宅入居促進を推進するにあたって、子育て世帯の市営住宅の入居を促進に取り組んでまいります。

このような取り組みはすごく力になると思います。今までいろいろな条件で崇仁から子育て世帯が出ていくばかりでした。エリアマネジメントも含めてそのことを言っています。この会でもそれを取り上げていただいて、活性化、将来構想、実は活性化というのは、崇仁地区から人を追い出して、学生のまちに完全にしてしまうというのが活性化なのかということをもものすごく危惧していました。

そうではないのであれば、もう少し、それこそ具体化、絵に描いた餅にならないような、具体的な方策を崇仁から崇仁の人間をなくさない方策というのを、早急に出していただきたいと思います。そのためには市営住宅の家賃体系とか、いろいろと難しい課題があると思いますが、お願いしたい。

それと、空き家対策とここに書いてありますが、国のお金が入っているので、市営住宅、公園以外のものを建てようと思ったら、国に補助金を返さなければなりません。そのことを、これは何という名前か分かっているのに、まだこの期に及んで、まだこれから留意する必要があるとか、そういうのは遅いと思います。絵に描いた餅にしないためには、すぐに出していただきたい。ここの地域には何を建てるか、ここの区分に関しては国に補助金に返しますと、そこまで早く言っていただきたいと思います。

それでなかったら、今大学は来たけれども、その他には子どもがいないまちに公園ばかりのまちに成りかねません。今、景観は、全部公園です。しかし、崇仁地区の子どもというのは、ほぼいないような状態です。だから、それを本当にすぐに施策を打っていただくということが絵に描いた餅にしないという、この会のつくったその活性化将来構想の答申を京都市は本当に役に立てていただきたい。これを本当に実現していただきたいと思っております。

◆門内委員長

今例えば、5ページ目の一番下のところに、文章として「留意する必要があります」と書いてあります。これは人ごとのように感じるので、取り組んでまいりますとか、取り組まないといけない問題ですので、留意だと留意だけになってしまうので、その辺も気配りをして、ちゃんと考えた方がいいと思います。

それと全般的にはこの種のビジョンというのは、ビジョンを書いたところで終わってしまうことが多いので、やはり粘り強く、しつこく推進していくという、そういう部署というか、地元との場でもいいと思いますが、協議ができるような何かそういう仕組みを考えていく必要があると思います。

そういう意味では最後の28ページのところに構想実現に向けてというふうに書いてあって、この2とか3とかの辺りを共有していくとか、この辺が実現に向けての宣言文章になっているかと思います。

特に3番については答申案が出たときに抜けていたので、私の方で構想の実現に向けたプロセスというのを書き込んでほしいと伝え、加えてもらってこのところに入っています。その辺りを、この文章も書いただけでは困るので、大きなことを一気にやろうとしないで、できることから取り組んでいくという、そのプロセスのデザインというのが、すごく大事になるのかなと思います。

ほかの方でいかがでしょうか。植田委員ですか。大学のもう一つの外部の立場でいかがでしょうか。

◆植田委員

この中に京都美術工芸大学が開かれた大学になってほしいとか、個性を出してほしいというような御意見がありますが、やはり、大学としまして、いろいろなことに取り組んではいますが、なかなか地域の方々と一体として物事を進めていくというのは、最初6割ぐらいまでは御理解いただけましたが、その6割ぐらいから、その先をいかにして100%まで上げていくかというのは、非常に難しい状況に至っております。

ですので、いろいろなことに取り組んでいます、もう少し行政がイニシアチブを取って、その間を6割から10割にアップできるような関わり方をしていただきたいなと思っております。

それと、市立芸大さんが何年か後に移転を予定していますが、最初にボタンを掛け違えると、これは後々、ずっと尾を引いてきますので、移転するまでに本当に地域の方と、その大学の方、話し合いを持って、いろいろ納得しながら進めていかないと、最初にボタンを掛け違えると、後々、それが何かしこりになってしまっていて、前に進まないという状況になってきますので、その辺、今私の大学もひしひしと感じているところです。

◆門内委員長

何かありますか。

◆佐藤委員

今のお話は大変重要なアドバイスをいただいたと思って、肝に銘じたいと思いました。

◆門内委員長

ほかの方の御意見をお願いします。丹治委員，いかがでしょう。

◆丹治委員

この冊子を読ませていただいて、非常に期待されている方がたくさんおられるわりには、あまり皆さん、皆山学区の人間でも、この間、これを一応皆に配りましたが、芸大自体を分かっておられない方がたくさんおられます。

菱田さんところの話もこの間、僕は会議で言いましたが、結局、学区長とかは聞いていますけれども、若い人が聞いていないのが現状です。なかなかこの話が若い方々に下りきっていないというのが、不安要素です。

単純に言いますと、例えば、芸大におられる生徒さんが、京都の方がどれぐらいおられて、全国からどれだけ来られているのかとか、みんな絵を描いていると思っておられます。だから、何をしているのかも、どんな学科があって、どんな人たちが生活をしていかれるのかというのもあまり分かっていない中での、結構いろいろな意見を書いてくれたと思っています。

だから、芸大というのは、こんなもんですよというのも踏まえながら、崇仁地域というのはこういうものなんですよというのを、もう少し易しくお伝えしていかないと、あまり難しくしてしまうと、今おっしゃったみたいに、地域との共生が難しくなってくるのかなと思ったりしました。

この間、5学区の話し合いのときに、非常にそんなことを感じました。長くやっている私でも、なかなか知らない話がいっぱい出てきますので、簡単なことを聞きにくくなってきていますので、簡単なことを少し分かりやすくしていかないといけないのかなと思っています。

まだ商店街の方では本当に説明する場がそうたくさんあるわけではないので、次の5月の総会でたくさんの説明をしなければいけないなと思っています。少し易しいところから話をしなければいけないということが、ここに来て感じることでございます。

◆門内委員長

はい。では、菱田委員，どうぞ。

◆菱田委員

一つ、先生と、それから、今の丹治さんが言われたので思いだしたことがありまして、

今崇仁地区でいろいろな取り組みをしている中で、自治連合会の中の一つの組織として、崇仁発信実行委員会というのがあります。これは小冊子で崇仁のいろいろなことを紹介していますが、この取り組みの中に芸大の学生さん、よその学生さんも、大学生がたくさん参加してくれています。先日も何かその発表会のときも、大学生がその会の司会をしてくterなど、そういうことも今起こっています。

それと、前回委員長のおっしゃっていたこの内容を、答申を京都市に渡すだけではなく、その後のプラットフォーム的な役割というのを言っていただきました。その役割を丹治さんや私らが取り組んでいる今の5学区、駅前東の渉成小学校に集まる5学区のメンバーが集まって、エリアマネジメント会という活動を行っていますが、そこは駅筋でこの構想案を具体化していき、続けてやっていきたいと考えております。

何かそのことを答申に対して表していただきたいなと思います。具体的にはこの趣旨、精神、それをエリアマネジメント部会が続けていかれるであろうとか、何か1文入れていただけたら、京都市の方もこれを具体化するというに、一つの力になるのではないかと考えております。

◆門内委員長

今、28ページの構想実現に向けての2番を見ると、その下の3行に、「そのため、より多くの多様な主体が、崇仁エリアマネジメントをはじめ、本エリアのまちづくりを推進する団体の活動に参加するなど、穏やかに連携して活性化に取り組みます」と書いてあるので、この辺をしっかり取り組んでほしいと思います。

◆菱田委員

これは崇仁に変えましたか。

◆門内委員長

間違っていますか。

◆菱田委員

崇仁ではなくて、駅前5学区に変更したのではないのでしょうか。

◆門内委員長

これでいいのかどうか聞かれたので、この内容については精査をお願いします。

◆菱田委員

これはまた名前がどうだったかというのをちゃんとお願いします。

◆門内委員長

寺川委員， どうでした。この書き方でいいですか。

◆菱田委員

はい。

◆門内委員長

結局，絵に描いた餅にしないために，5を付けていただいたというところがありまして，プラットフォームとか，場とか，つくらなければいけないのが，ハードな空間よりも，むしろ，活動をデザインするというのが結構大事なことで，まずはそこから始めていくというのが良いのではないのでしょうか。

赤星委員，違う観点からでも良いのでいかがでしょうか。

◆赤星委員

ありがとうございます。この改訂案の中で，将来の構想をまとめになられた事務局の皆様，関係者の皆様の御尽力には敬意を表したいと思っております。

このパブリックコメントの中におきましても，とても多くの部分でホテルがたくさん増え過ぎています。民泊が増えていて，市民生活，あるいは自治会の運営，活動が妨げられていることや，観光客が増え過ぎることによる市民の皆様の不安というものが，このパブリックコメントだと非常に多いというふうに言えます。

ついては，観光を担当している一人の担当者として，非常に心苦しく思っている部分もございます。

全体の将来構想については，まさに絵に描いた餅になってはいけないのですが，やはり絵も描かなければいけないですし，皆様の方向性を，ある程度同じベクトルを向いていくという部分では，この将来構想ビジョンというのは，非常に重要なことだと思っています。

内容についても特に修正とか，そういったものはありませんが1点だけ，その観光という点で申し上げると，実はつい先日，御紹介になってしまいますが，京都市さんと私の観光協会の方で京都らしい宿泊施設表彰というのを，昨年度から始めています。これは通常，その宿泊施設さんの表彰だとかいうのは，例えば観光客の満足度が高かったとか，あるいはデザイン的に優れているとか，そういう狭い意味での宿泊施設のアワードと言いますか，表彰を行っています。

実は京都の場合は，ホテルも旅館も最近増えている簡易宿泊所，いわゆる民泊的なものも含めてなんですが，より地域と調和し，貢献していただいている宿泊施設を表彰しています。これはまた行政ですとか，観光協会みたいなのが選ぶのではなく，かつ消費者が選ぶわけでもなく，これは地域の皆様が，例えば，自治会さん，あるいは商工

会さん、そういった地域の推薦がないと応募ができないという仕組みになっています。

今年度表彰されたところで申し上げますと、新たに京都に入ってこられている外資系の宿泊施設さんや、まったく京都に今までコミュニティーに入っていらっしゃらなかった、外から入ってこられた宿泊施設さんもあり多くの宿泊施設さんが地域から御推薦をいただいています。

これは何を言わんとしているかと申し上げますと、京都で商売していく、観光というところで、マーケットインしてくる事業者さんというのは、少しずついますが、いわゆる京都の難しさと言うと語弊がありますが、京都で長くともに生きていくということを考えたときに、いわゆる京都ルールのものがそういった事業者さんにも徐々に伝わってきているのかなと思っていますところでございます。

ですから、やはり投機的な部分であったり、短期的にビジネスとして京都でお金をもうけていこうという方々には、やはり京都は難しいまちなんだと。しっかりとその地域の方と足並みをそろえつつ、いわゆる地域の方に貢献をしていく、地域の皆様と一緒に観光客を迎えていくというような、啓発みたいなものをより一層、京都市の観光セクション、私どもの観光協会、コンベンションビューローと加速化していったら、とにかく地域住民の皆様と、観光客の皆様、調和といったものに関しては、次年度以降も力を入れていきたいと思っていますところでございます。

もう1点、計画の中にもございました歴史的・文化的建造物等の活用であったり、あるいは観光振興みたいところで申し上げますと、観光というのはややもすると一つのお寺さん、一つの博物館さんというところで、おのおのの事業者さんであったり、そういった方々が集客をされています。

やはり駅を基点として、東山の文化ゾーンと言われているところとつなぐために、点ではなくて、面でそういった観光ルートを策定したり、あるいはそういったルート策定に学生の皆様の知見をいただいたりとか、いわゆる空間デザインや、時間のデザインといったことを、しっかり地域の皆様と活用しながらつくっていければなと思っています。

これは実際に来年度、4月以降でございますが、官公庁さんや、文化庁の補助金を私どもは申請させていただいておりまして、次年度に何らかのかたちになるような、この計画ビジョンに基づいた、具体的な観光商品であったり、情報発信みたいなものができればと思っています。

また、今回、4回目の検討委員会でございますが、諸先生方、地域の皆様と観光協会としても御相談に上がらせていただければと思っていますので、何とぞよろしくお願い致します。以上でございます。

◆門内委員長

先ほどアートと福祉の関係というのも出てまいりましたけれども、観光との関係も十

分あり得るテーマだと思います。そういったところへ入って行って、いろいろなメディアで発信していく、パンフレットをつくったり、いろいろなこともあるので、大事なことかなと思います。

本日欠席されております、長上委員の方から事前に事務局が御意見を伺っているということです、その御意見について御紹介していただけますでしょうか。

◆事務局

事務局の方から長上委員の御意見について御報告をさせていただきたいと思います。長上委員につきましては、龍谷大学の方で教鞭を執られておりますけれども、長上委員の龍谷大学におきましても、SDGsの、国連の持続可能な開発目標に関しましては、大学を挙げて取り組まれているテーマでありまして、あらためてこの構想の中に位置付けていただくことに対して、すごく関心を示していただき、そして、できるだけはっきりと明記していただくようにといった御意見をいただいているところでございます。

長上委員からの御意見につきましては以上でございます。

◆門内委員長

このSDGsというのは、答申案の3ページ目の下のところに明記されていて、これはミレニアム開発目標の後で国連がつくったもので、17項目あって、大変よくできています。その項目の下に、またパラメーターがいっぱい準備されていて、膨大なものです。

特にその中で、インクルーシブデザインというか、全ての人々を包摂的に、公平に質の高い教育を提供し、生涯学習の機会促進をするという文言が記載されています。

だから、地域のことを考えていると同時に、持続可能な社会ということで、地球全体の視野も忘れないようにしようという御指摘かと思います。

特に最後の17番目の項目は実現方策というのがSDGsの17番目に入っていて、誰がどういふかたちで会話をしながら、ちゃんとやっていくのかというのを、トップダウンだけではなくて、ボトムアップのプロセスをちゃんと入れていかないと、うまい都市ガバナンスが効かないというようなことも明記されています。

だから、かなりパーティシペーションというか、参加型で、対話型でやっていかないと、SDGsは実現できないということを明記してあります。私は11も大事だけど、17も大事だなと思っているので、17を見ておいていただきたいなと思っています。

この案件、答申案につきまして、御発言いただいていない方で、御意見ございますでしょうか。谷中委員、いかがですか。

◆谷中委員

ありがとうございます。私は東部エリアの方で個人事業主として事業している立場か

らの意見になります。それが先ほど、佐藤委員がおっしゃった、学生さんが来て、その将来像が見えないとかいうところにもつながってくるかと思いますが、やはり、芸術家の方とか、それこそ伝統工芸をされている方というのは、どちらかと言うと、大企業になるわけではなくて、個人事業主や小規模ないわゆる中小企業でやられる方が多いと思います。

正直なところ、以前にもお話ししたかと思いますが、どこに行っても、どこの大都市に行っても、同じようなものしかないというのが私はいつも見ていて残念だなと感じています。大企業に占められているというのが、すごく残念なところだなともいつも思っています。

先日できた烏丸の経済センターも大手さんがどんどん入っていき、比較的京都の事業さんとかが入っているのが、少しは理解できますが、一番いいところに東京資本の、一見京都っぽいような東京の企業さんが入っています。

そういうのを見てしまうと、結局はビジネスをする上では当然のことですが、まちで一生懸命その自分のやっていることとか、思いとかを伝えたいとか、表現しているその事業さんたちというのは、やはり資本力、資金力、あと、連携力、その辺が少なかったりするので、どうしても勝てず、勝つというわけではないですが、ただ、違うところで勝負していかないといけないというところがあり、それが実際に事業されている方というのは、それはそれで違うところで表現していらっしゃる方が多いので、問題ないと思います。

しかし、逆にこれから社会に出ていかれる若い学生さんから見ると、将来像が描けるのかなというのが、すごい私の中ではいつも思っています。

そういう意味でもせつかく芸大が来られるのであれば、将来、こういう働き方とか、こういうやり方があるんだということを、やはり生活圏内で見られるようなかたちにしていきたいと思っています。

その他で、やはりこのエリアの中で事業をされている方はたくさんいらっしゃると思いますので、その事業をされている方同士の連携とか、コミュニティーみたいなものをつくって、本当に定期的に会議を設けるとか、そういうことではなかったとしても、学生さんも含めて何か一緒にできるような取り組みなどができればと思っています。もちろん、今もやられていることはたくさんあると思います。

それが私たち、結局事業をしているということは、それにいっぱい、いっぱいになってしまって、外に目を向けることができなくなってしまうという事実もあります。そういう意味で何か東部ではなくて、西部エリアでは、冊子的なものが確かに置いてあったと思います。何かこのエリアにこういう事業がありますよ、こういうような商店がありますよみたいなものをつくられていたと思います。本当にああいうかたちでまとめたりとかして、配布していくことも考えられます。

何か逆に言うと、そういう業者さん、クリエイター、それこそチラシをつくってい

っしゃる方とかも含めて、こういうエリアにどんどん入ってきてもらうような、事業主さんが活動を活発にできるようなエリアにしていくことによって、逆に言うと生活圏内をそこに設けられたりとか、あと、まちの方とコミュニティーをつくったりとか、コミュニケーションを図るようになったりとかいうことで、簡単にできることは、私の目線から見たら、そういうことが、一人一人の事業主が向いていけばできるのではないかなと思いました。

◆門内委員長

ありがとうございました。いろいろな意味で事業主にしろ、何にしろ、連携をしていくということはすごく大事だと思います。例えば、企業と大学を結ぶ場合でも、私が京都大学にいたときにデザインイノベーションコンソーシアムというのをつくって、企業に集まってもらい、それで学生と一緒にプロジェクト行い、そこで就職していく人も出たり、支援してもらったりという、何かそういう仕組みとか仕掛けというのは大事だと思います。

それが既存の商店組合とか、いろいろな組織間、ばらばらにならないで、統一的なプラットフォームがうまくできればいいなと思います。松永委員、答申案についてご意見をいただけますでしょうか。簡潔で結構です。

◆松永委員

難しいことを言われると分かりませんが、本当に素晴らしい意見がいろいろ出てきておりましたので、私もすごいな、皆さんの話を聞いているとまた違うんだなという思いでお聞きしております。

先ほども話がありましたように、経済センターの1階に商業施設ができて、上にまた住宅が入っているようなお話もお聞きしました。

私は先ほどから時々出てきます、福祉の話について、あそこの1階に大きな福祉施設というわけではないけれども、大人も子どもも障害のある人、みんなが簡単に住めるような、3階以上の住宅にそういった方たちが住み、1階は商業施設にして、2階はお医者さんとか、介護士さんとか、いろいろな方が入ってというような、自分で勝手に夢を描いて、そういった建物ができないのかなというようなことを思ったことが一つです。

先ほどから見ておきますと、皆さん美術大学を出られて、お勉強していらっしゃる方の発表の場というのも間違いなくできてくるわけですが、その中に皆さんと一緒に地域も一緒に勉強できるような、参加できるような教室というのが、芸能、文化、全てが寄ってできるような、そういう施設があるといいなというようなことも感じたりしております。

七条通をずっと通っていったときに、今私たちの学校は少子高齢化が大変進んでおりまして、空き家が先ほどから出ておりますように、ぼつぼつと出ています。まとまって

いくと、大きなものができますが、小さい家がいっぱい出てくるので、本当に買う方も大変難しいんだろうと思います。今大変地価が上がっております。

今ふと佐藤委員さんのお話をお聞きしたときに、私たちの地域はずっと職人のまちでした。昔は朝起きると早くからこんこんと音がして、仕事をしていらっしゃる方があったし、風呂敷包みを持ちながら、みんな地域、近所を一つずつ回りながら、みんな本当にほとんどの人が何かのかたちで仕事に携わっていました。

扇子が特に私達の地域には大きかったです。皆さんされていらっしゃるし、そういった家が今空き家になってきていらっしゃる場所も結構あるから、陶器の絵付けとかの仕事の方もたくさんお住みになっていらっしゃるというような地域でした。

あそこはまた卒業された学生さんたちの、職人のまちに変わってくると面白いのではないかと、ふと今感じながら思ったりしました。

◆門内委員長

そのまま住み着く人もいればいいと思います。

◆松永委員

そう住み着く人が出てきてくださるとうれしいなと思いました。

◆門内委員長

働き方とか、なりわいの在り方もこれから変化していくと思います。

◆門内委員長

ありがとうございます。最後に一番若い高岡委員に御発言いただけますでしょうか。

◆高岡委員

私はこういう会議に参加させていただいて、将来構想を考えるということまた、答申案をしっかり読ませていただくということも初めてでした。

これからたぶん具体的な案とかが進んでいくんだろうなというふうに考えていますが数字と言いますか、分かりやすく、これをこうしていきますよという案が少しずつ見えた方が個人的に分かりやすく、今、少しぼやけているかなというふうに、私が読んでいる中では理解が追い付かなかったと言いますか、どうなっていくんだろうというのは、少し残っているように感じました。

あと、やはり新しく京都市立の芸術大学さんが移転してからの話が多いように感じます。現在、私たちは美術工芸大学として、今こちらにおりますけれども、そっちよりも中心となってくださっている芸術大学さんが来た後にどうなっていくかということが、多く書かれているかなと感じました。

寺川委員がおっしゃっていたように、私たちは今こちらにおりますので、今からすぐできるようなことを言っていただけると、何をしたらいいかというのが、今いる学生が考えやすいかなと感じました。以上です。

◆門内委員長

ありがとうございます。それで28ページの3番を入れてもらいました。若い人たちが小さな変化でもできるようなかたちで、それに助成金も付けてもらってというようなことを入れていただきました。

あと、できるだけイメージしやすいということで、取り組み例というのを入れていただきました。これはエンドレスなので、これをまた豊かにしていくというのが、これからの仕事かなと思います。

だいぶ予定の時間が過ぎていますが、一応皆さんに一通り、御意見を伺いましたので、皆様からいただきました御意見を踏まえて、将来構想の答申を修正していただくべきところは意見を踏まえて修正をしていただくということで、確定をさせていただきたいと思います。

確定と言っても、まだこれから修正が入りますので、文案につきましては私と事務局に一任いただいて、さらにそれを皆さんに御確認をいただくというふうな手続きで、委員長として、私にとっても入るのが重いですが、一応書いてあるので、責任を持って御一任いただくというかたちにしたいと思います。

もう少し修正は入りますけれども、この答申を京都市長に提出をするということで、一番最後の紙に、資料5にスケジュールが載っています。3月26日に京都駅東部エリア活性化将来構想検討委員会から、京都市へ答申というふうになっています。時間は11時半から12時だったと思いますが、それで代表と致しまして、私と職務代理者を務めていただきました寺川委員とで行きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

それで一応将来構想の答申案については以上でございますけれども。もう少し時間がございますので、予定としては一人3分で、10人で30分というふうになっていますが、べつに一人3分でなくても構いません。一当たり、皆さんに簡単に何か御意見がございましたらおっしゃっていただくというかたちにしたいと思っております。

こっちから、あったら、あいうえお順でいきましょう。だいぶしゃべってもういいと言うかもしれませんが、どうぞ。

◆赤星委員

先ほど申し上げましたが、この検討委員会を通じまして、日頃お会いできないような先生の皆様方、地元の皆様とお会いできましたことを、この御縁を大事にしていきたいと思っております。今後も観光の部分、最近マイナスな報道が多いですが、しっかり京

都市のために、京都市民の皆様のために寄与できるべく頑張っていきたいと思っておりますので、なんなりと観光に関することがございましたら、おっしゃっていただければと思っております。以上です。ありがとうございました。

◆門内委員長

説明を忘れていたんですけれども、この地域に生活されている方、あるいはさまざまな専門分野で活躍されている方に集まっていたいので、何か御自身がどのように将来構想と、このエリアのまちづくりに関わっていけるかということを発言していただきたいと思っております。

つまり、人ごとではなくて、自分ごととして、決意表明というわけではないですが、関われる部分があるのかというようなこと、あるいは今後に向けての展望とか、期待を御自由に御発言いただくということで、表明していただいたので、ぴったりでした。

◆赤星委員

そうですか。ありがとうございました。

◆門内委員長

では、植田委員、どうぞ。

◆植田委員

個人的にはあまり大した意見を述べられたとは思っていませんが、私も以前、国立博物館で勤務しており、京都国立博物館が特別展をやっているときはそこに七条通というのが非常ににぎわって、人があふれるぐらい道が狭くて、危ないなというような状況でした。

そういった状況と、展覧会が終わった後ではあの辺が一変します。本当にきのうまでのにぎわいは何だったのかなというような、そういったにぎわいのあるまちというのは、やはり博物館、四条通の三十三間堂さんもそうなんですけれども、何か連携しながら進めていかないと、点から線になって、面にならないと思います。

その辺のところが、今ある商店街もそうなんですけれども、何となく寂しいので、まち自体を活性化するためには、いろいろな施設、商店街を含めて連携しながら、タイアップしながらやっていかないと、何か一過性で今終わっているような感じで、それが継続するようなまちづくりを目指していくために、今うちの大学も寄与していきたいなと思っております。

◆門内委員長

はい、ありがとうございます。では、佐藤委員、どうぞ。

◆佐藤委員

1 ページに書いてありますが、「世界文化自由都市宣言」の中に、「京都というのは永久に新しい文化都市が続ける」という言葉がさっきから非常に素晴らしいなと思っています。永久に新しいというのはなかなか難しく、そんなことができるのかなと思います。ここに僕は先ほどから観光の話もありましたが、なぜ京都に観光客の人が来るのか、あるいは僕はもともと東京出身ですけど、どうやって東京を捨てて京都に来たのか、そのことを考えるヒントがあるような気がします。

それは日本の都市の中で数百年、千年の歴史が生きた状態で感じられて、生活の中にあるまちというのは非常に少なく希有な都市だと思います。それが京都の魅力であり、力であるというふうに思います。

それを千年間維持されてきたものを、この先の千年も維持していき、かつ永久に新しいわけですから、ただ維持するだけではなくて、そこに今生きている人たちがまた何かを付け加えていき、それが次の千年残るみたいなことをやっていくというふうに考えると、この計画は10年計画なんですけれども、おそらく千年ぐらいの、非常に長いスパンで京都に託されている。あるいは京都がした方がいいと思う仕事というのが、あるのではないかなと思っています。その基点になるのがこの京都駅東部エリアなのではないかと思っています。

そういう意味で今日、お寺の施設でやっているというのがすごく象徴的だと思っています。お寺、東本願寺のお堂とかが、駅前にどんと、多くの人が集まれる場所があるというのが、象徴的な文化的豊かさと思います。

そういう意味で今日、最後、お寺のアクセスができたというのは意味があるかと思っています。そこには芸術大学だけではなくて、哲学とか宗教とか、やはり長く生きていく上で、すぐお金とかにはならないかもしれないけれども、生きていくための知恵みたいなものというのと連携していく必要を感じました。

あと、もう一つは、松永委員のおっしゃった職人のまちというイメージは、私も非常に共感しまして、職人さんというのは仕事場が外から結構丸見えな職場などが、多いことはいいなと思います。

一つ今回あらためて今日の会議で思ったのは、大切なのは発表して、そのアウトプットを見せるということも大切ですが、むしろ、つくっていくプロセスを見せようということが、すごくこの地域にとっては大事なのではないかなと思っています。

それをその伝統工芸であれ、芸術大学、美術大学、音楽であれつくっていくプロセスを知ること、お互いに何をやっているのかというのが、芸大は何をやっているのというのが丸見えだったら分かると思います。

それもそうですし、あとは地域の人たちがここで生きているという、サバイバルの技みたいなものを、バイトの学生さんにこんなふうに仕事をしているとか、こんなふうに

自分をつくっているんだと、売っているものとか、商売でどうものをつくっているんだと、生きる技を、それぞれの地域の人が持っている技みたいなものも見せられるような、そういう大きい意味でのまち全体が一つの作業場といいますか、方法みたいな、そういうものになればいいなと思ってお聞きしていました。

それを僕としては、やっていきたいと思っています。

◆門内委員長

ありがとうございます。それでは高岡委員，どうぞ。

◆高岡委員

私は4回参加させていただいたんですけれども、大した意見も何も言えなくて申し訳なかったです。こういった会に参加させていただいて、いい経験をさせてもらったなとすごく思います。

私は今年で4回生になりますが、これから就職を考えていくにあたって、今回こういった会に参加させていただいていろいろなことを感じさせていただいたので、京都の活性化につながるようなことを視野に入れつつ、就職活動ですとか、これからの活動を頑張っていきたいと考えております。ありがとうございます。

◆門内委員長

それでは谷中委員，どうぞ。もうしゃべってしまいました。どうぞ。

◆谷中委員

私は実は少し人手不足で、今回4回ありましたが、都合が合わず、2回しか来られずに本当に申し訳なかったです。そんな感じで実際、個人でやっている中で、人を雇用するというのはとても今大変な状況です。

ただ、どこでどういうふうにまちと関わっていくのかというのは、とても大事だと思っていて、その事業をやる上で、やはりまちに愛されないと事業はそこでは存続していけないというふうに思っています。本当に丹治委員も先ほど言っておりましたが、まちで運動会などがあっても、忙しいから無理だと思われずに、ぜひ前もって言っていただいたら、そこを空けるだけの話なので、どんどんまちの取り組みだとか、地域の方と触れ合っていく場みたいなものは、しっかりと時間を取っていくことも仕事の一つだと思っています。

本当にむしろ今日、今からできることといったら、何かされることがあったら、全然私に声を掛けてくださいということと、私からも何か提案できることがあったり、こんなことを一緒にやりたいというのがあったら、どんどんやりたいというのを言えるような関係性を、これからも持っていけたらいいなと思っております。ありがとうございます。

ました。

◆門内委員長

ありがとうございます。それでは丹治委員，どうぞ。

◆丹治委員

商店街の理事長として出させていただきましたので，商店街の流れを案じてと思っていましたが，どうしても地域性の強いところですので，地域としての意見を言わせてもらったようなことで，ややこしいなと思いながらやっておりました。

実は七条商店街はもともと，西，西部エリアというのをずっと取り組んでおりまして，確かに向こうもいろいろな問題を抱えて，特に梅小路という公園ができるというところで，もう少しつながってやっていこうということで取り組んでおります。

そのようなかたちで東部エリアを思っ，いろいろ京都市さんにもお話ししながら思っておりましたが，ずいぶんかたちが違う印象を受けました。特にわれわれ商店街の会員さんはお商売のことはとても熱心ですが，なかなか地域との絡みがありませんでした。特にこの駅前地区の方々非常にお商売は上手ですが，水くさい人が集まっております。

ただ，最近ずいぶんと変わってきました。特に西部エリアの中でも，先ほどおっしゃったようなパンフレットを出すことになっても，非常に協力的ですし，今回東部エリアのこともだいぶ理事会ではお話をさせてもらいましたが，少し，お分かりでない方々もまだ多いので，これをきっちりとお伝えしていくことが，そしてまた西部エリアの方々にも正しくお伝えをしていくことが役目ではないかと，今は思っております。

当然ずっと東山区と言いますか，先ほどおっしゃった国立博物館，ホテルハイアット，七条商店街から見ても，ちょうど真っすぐ見えており，つながっていききたいないつも思っておった地域でございますので，こういうことを機会に何か商店街としてつながりを持てていければいいなと思っております。よろしくお願いします。

◆門内委員長

ありがとうございます。それでは菱田先生。先に，どうぞ。

◆菱田委員

この会では全然触れなかったんですが，この駅前東で崇仁地区というのは同和地区です。京都市は終結宣言した関係か，旧同和地区，旧同和问题という言い方をしていますが，その後から国の方から新しい「部落差別解消推進法」ができ，京都市だけは，その問題はないんだということですが，実は現前としてあります。

その中でいろいろな取り組みをしながら，こういう駅前東として位置付けて，同和问题解決ということにも関係するんだと思って，この会に参加させていただいていました。

一つの例でいきますと、崇仁新町のことがここに 있습니다。あれは実はこの前段となるテストだったと僕は思っています。崇仁新町をするときに、一番心配したのは、同和地区の中にそのようなことをやって、昔よく言われた犬の肉を食べさせるのと違うやろうかと、そういう差別的なことが起こるのではないかと、いろいろな心配もしておりました。

ところが、あれだけの市民がたくさん来ていただいて、最初の1年間は年間2万人を超えました。テントや何だと言われながらも。だから、同和地区と言われながらも、いろいろないい企画、第一、方針もあれば、人が寄っていただく一つのあれは実はテストケースだったと僕は思っています。素晴らしい結果が出ていると思います。

あれも今年1年で終わりですが、次の展開というのが早くエリアマネジメントと一緒に、京都市も次の空き地には何を考えるんだと、今すぐ始めないといけないのですが、はっきり言いまして、なかなか進みません。

だから、今度のこの答申がすごくてこになると思います。本当に委員の先生方、ありがとうございました。

◆門内委員長

少し順序を変えます。次に松永委員にしてもらって、最後に寺川委員にします。

◆松永委員

ありがとうございます。先日、七条通の商店街のお仕事をしていらっしゃる方が、この問題の話をしていたところ、崇仁学区の方が一生懸命頑張ってくださっているから、大丈夫ですよという話をお聞きしましたので、本当によかったなと思っております。

私としては本当に若い人たちがこの京都に住み、せっかく勉強して、遠くからお越しになった方もたくさんいらっしゃいますので、この京都に住み続けていただけるような地域にしていきたいなと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

◆門内委員長

では、寺川委員。

◆寺川委員

ありがとうございます。今お話しいただいたんですけれども、崇仁新町、荒木さん、あれは月2万人ぐらいですね。

◆事務局

そのぐらいだと思います。

◆寺川委員

月2万人ぐらいです。

◆菱田委員

ああ、そうですか。

◆寺川委員

崇仁新町は、そういう意味でにぎわいの一つのチャレンジです。あれが一つの実験として、これから1年たちましたから、あと1年どうなっていくかということが、重要な時期にきました。

今、お話があったように今回の答申というか、この構想づくりというのは、やはり、崇仁の話もそうなんです、見えない壁を乗り越えるプロセスだったと思います。それぞれが持っている立場とか、状況を超えて、こういう大きなものをつくっていく。

それも今の差別の問題もありますが、やはり、なかなかまだ壁があると思います。それぞれに私たちが壁を越えていくという作業だったと思います。そういう意味でこれをどう具体化していくかということこそ、今問われていると思います。それぞれのいろいろな立場の人たちが、これをどう具体化していくのかということについて、一つの吉書ができたと思いました。

そういう意味で言いますと、方針が今出ていましたので、あと、ツリー型の方針が出て、次、こういう目的があって、事業があってと、上から行動していくようなかたちでは、たぶん動かないと思いますので、最終的にはこんなんでいこうよということを、みんなで決めましたから、これは8割方のまちづくりと1回目にも言ったと思います。

あとは実態が積み重なっていくような、そういうものがまちをつくっていくんだろうなというふうに感じました。まちの中で発生する出来事を大切にして、横につないでいくということなんだなと思いました。

あと、一つだけ文章の中で、今あらためて見まして、僕がお話ししたことをだいぶ入れていただいて、本当にありがたいなと思います。少し気になったことを1個だけですけども、担い手を育成しますとか、整備しますとか、そういう文言が多いんですが、一言、誰にメッセージを出しているかという辺りが、少し一部見えにくいなと感じています。

どちらかと言うと、例えば、あなたのやる気を受け止めますとか、何かそういう自分たちのポテンシャルとか、エネルギーを受け止めるよ、そのために支援しますよという、もう少しポジティブな、そういう動きをサポートするという言葉もいるのかなと思いました。

キーワードとしては、例えば、チャレンジしやすいまちを目指すから、みんなやりたいようにおいでよと、そのための制度とか支援とか、こういうふうにするし、空き家も

使えるよみたいな、そういうここでやれるんだなというような、メッセージ性というの
も必要ではないかなというふうに感じました。

あと、最後ですが、今回最後の文章にもありましたが、崇仁のエリアマネジメント協
議会、5学区が入っていただいて、増えていきました。先ほど、菱田さんもありました
が、あれは受け皿の一つとして、やはりそういうところ、今お手伝いさせていただいて
いますので、今後もこの答申を具体化する立場として、これからもサポートさせていた
だきたいと考えております。皆さん、どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。

◆門内委員長

ありがとうございました。最後に私の方から申し上げておきたいことがあります。今
京都のまちづくりの考え方としては、小さなまちというか、ヒューマンスケールのまち
の集合体として、京都をつくっていくという考え方です。

だから、大きな網を一挙に掛けるのではなくて、対話ができる、コミュニティーに対
応した小さなまちが幾つも集まって、京都というまちができているんだと、そういう考
え方で、今新景観施策の見直しとか、いろいろなことを進めて、あるいは持続可能な都
市をつくっていくというふうな、基本の考え方はそのような考え方です。

だから、そういう意味ではこの京都駅東エリアという都市エリアが、対話ができるヒ
ューマンスケールのまちで、皆さんと対話と協働を通してつくっていく。

そのときにやはりすごくポテンシャルが高いのは、やはり京都駅に近いということだ
す。それから、今度京都芸大がここへ移ってきたというのは、やはり大学というのはす
ごくインパクトがあり、もちろん、美術工芸大学がここへ来たのも大きなインパクトの
一つですけれども、大学と都市の関係というのは、思っている以上にすごいポテンシャ
ルがあり、常に新しい人材が入ってくるわけです。

そういう意味ではすごく大きなインパクトのあることなので、大学にとっても西部の
地域からこの京都駅の都市と向き合うというところに移ってくるわけですから、そうい
う意味では大学と都市を結び付けるインターフェースだと思います。だから、大学の例
えば、23ページに京都芸大の絵が出ております。

実は、私自身は京都芸大のプロポーザルコンペの審査委員長を務めて、その後、この
建築、出来上がるまでアドバイザーをやれと言われて、それともう一つ、立場的には京
都市立芸術大学の客員教授も務めています。

この絵は町家と言うよりも大きな寺院のような感じで、屋根も湾曲しているのは、み
んなが集まるように、非常にインパクトのあるお寺のような感じというのがあります。
それから、中に通りがあって、その通りの中にみんなが入り込んできて、いろいろな芸
術の活動をしている人たちの姿、アクティビティーが見えるような感じの、まちのよう
な建築をつくっているということなので、この大学の中に地域が入っているというイメ
ージです。

反対に今度大学の活動が地域の中に入っていくという、そういうこともすごく大事なので、そういうインターフェースがいろいろなところにちりばめられると、一種のカルチェ・ラタンのような雰囲気のあるまちになるのかなと思います。

それから、もう一つはいろいろなものをつないでいくかたちになりますが、おそらく芸術、アートを考えると企業に就職してどうこうと言うよりは、暮らしとなりわいが一緒になったような、新しい生き方というものの実験都市にもなるような気がします。

それから、今度は文化庁が京都へ移転してきます。たまたまですが、私は文化庁の建物のプロポーザルの委員長と、出来上がるまでのアドバイザーを務めていまして、2022年4月から文化庁がオープンします。

それは何かと言うと、これからの都市というのは、文化が経済を駆動するという、今までの工業化時代は、資源はエネルギー、石油などでした。これからの時代というのはむしろ人材が集まって、クリエイティブな活動をし、その文化が新しいクリエイティブな産業をつくっていくという、そういう時代になってそのときに文化庁が京都に来るといのは、大変大きなインパクトがあります。

そういう意味では文化が切り開く新しい経済、あるいは学問、アートの文化を基軸にして、まちづくりを進めていくという、そういう意味では産業と文化が息づくクリエイティブでレジリエントな都市をつくっていくというのが京都のビジョンになると思うので、それを先導するエリアがこの京都駅東エリアではないかと思っています。

特にここが一番上の階のところには、産学協同のあるいは、そういうインターフェースになるような施設が入ってくる可能性もないとは言えないわけで、いろいろな意味で大学と都市とリンクしていくということです。

それから、菱田委員がおっしゃっていたように、これまで住んできた人を、新しい者を入れて追い出していくという、そういうのをジェントリフィケーションと言うんですけども、今はそういうまちづくりは駄目で、やはり今まで住んできた歴史を継承して、それを発展させていくという中に本当のまちづくりというのがあると思います。

そういう意味で21世紀の先進的なまちづくり、まちづくりと言うより、まち育てと言った方がいいかもしれません。まちを育てていくような、そんなかたちになればいいなと思っています。

その大学だけではなくて、都市の中にそういう受け止めるようないろいろな仕掛けを、このビジョンの中に書き込んでおきたいなと思っていました。

いずれにしても安全・安心は大事です。ケア、福祉というのは、今度も人の助けが身にしましたので、すごく大事なことです。だから、人と人を結び付けるというのは、ケアと食べ物です。もう一つ、エネルギー、やはり、そのうちのケアというのはすごく大事な事かなというふうに思っています。

そういう人に優しいまちにしていきたいなと思っています。

いずれにしても、一応ここで東エリアのビジョンがほぼ出来上がったということです

ので、これでシナリオによりますと、１１時５０分に、そろそろ予定の時刻がまいりました。それでは事務局にお返ししたいと思いますと書いてあるので、ちょうど１１時５０分なので、よろしくお願いします。

3 閉会

◆事務局

門内委員長、ありがとうございました。大変スケジュールどおりありがとうございました。皆様におかれても、長時間の御議論本当にありがとうございました。今後のスケジュールにつきましては、今日の御意見を踏まえて修正が若干必要かと思っています。表現についても検討した上で、調整してまいります。

資料５の中に今後のスケジュールがございます。先ほど御紹介いただきましたが、来週３月２６日にこの検討委員会から京都市長への答申をいただくということになっております。

年度内ぎりぎりになるかと思いますが、それを受けまして東部エリア活性化将来構想を策定してまいる予定でございます。

それでは閉会にあたりまして、総合企画局プロジェクト・情報化担当局長の山本から一言御挨拶を申し上げます。

◆山本総合企画局プロジェクト・情報化担当局長

それでは最後に御挨拶を申し上げたいと思います。門内委員長をはじめ、委員の皆様方におかれましては、この活性化の将来構想に関しまして、９月の初日が８日の雨の日であったと思いますが、第１回の会議以来、大変貴重なお時間をいただきまして、また熱のある、活発な御議論をいただきました。とても密度の高い御議論をいただきまして、この場をお借り致しまして、厚く御礼申し上げます。

本日も御紹介致しましたとおり、市民意見を見ておりまして、非常に多くの方々からこの構想への賛同の声をいただいております。同時に期待しているよという声もたくさんいただいております。先ほどもお話がございましたように、年度内に答申に基づいて、年度内と言いましても、あと１０日ぐらいしかないんですけれども、この将来構想を策定致します。まとめます。

そして、先ほども厳しく御指摘をいただきましたとおり、この構想ができて終わりではなくて、来年度、もうすぐに実行のフェーズに移っていくことになります。そこでまちづくりの主体であります、市民の皆さんとか、地域の皆さんとか、大学とか、事業者の皆さん、そして、京都市とが一緒になって、先ほども委員長からお話がございましたように、他人ごとではなく、みんなが自分ごととして、自分の問題として、自分ごと、みんなごととして、ともにこのエリアの活性化に取り組んでまいりたいと思います。

それから、文化芸術都市京都の新たなシンボルゾーンをつくっていききたいと、このよ

うに考えております。

今日は京都市議会ですが、来年度予算を審議する市会の最終日でございます。今頃まだ本会議が続いているのかなと思いますが、そこに市長も出ておりまして、大変申し訳ないんですけども、市長が出席させていただくことができませんでした。市長に成り代わりというのは、大変気が重いんですけども、代わりましてここに厚く御礼申し上げます。

先ほども委員の皆様から温かいお言葉をいただきましたが、今後実行に移していくにあたりまして、また大所高所の御協力、御支援を賜りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

簡単ではございますが、これで閉会の御挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

◆事務局

それではこれで第4回の委員会を閉会させていただきます。皆様長い間、どうもありがとうございました。

(終了)